

皮膚生検法と搬送・解析の手順

EFNS guidelines on the use of skin biopsy in the diagnosis of peripheral neuropathy.
Eur J Neurol.2005;12:747-58.

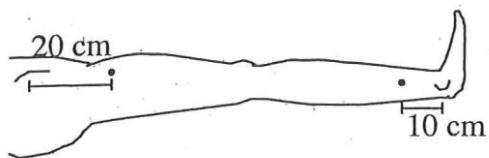
Laboratory of Dr.William R.Kennedy web site:<http://kennedylab.med.umn.edu/>

Therapath web site:<http://www.therapath.com/content/view/23/78/>

を参考に作製

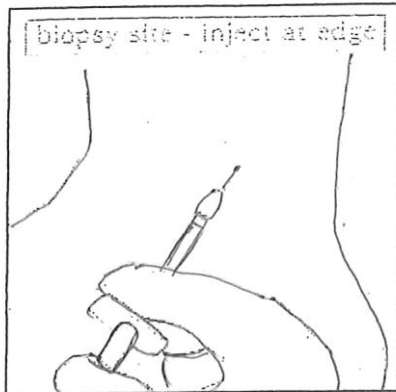
採取部位

下肢遠位部（外踝１０センチ上）

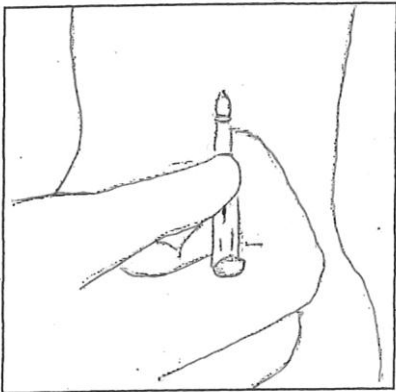


遠位、近位比較の場合、大腿上部外側(前腸骨棘２０センチ下)と下肢遠位部（外踝１０センチ上）の２ヶ所採取の場合もある。

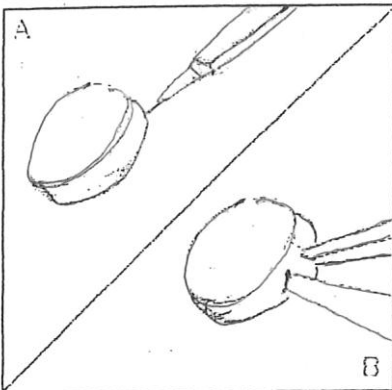
手順



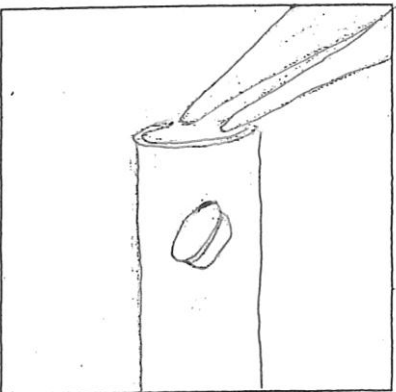
1. 生検部位の周囲1センチに○印をつける。
2. アルコール消毒を行う。
3. 2%リドカインで円の辺縁に沿って湿潤麻酔を行う：生検部位には直接針で触れないようにする。



4. 3ミリの使い捨て生検パンチを用いて2ミリの深さまで生検する。



5. A:麻酔針で生検皮膚の辺縁を持ち上げる。
B:ピンセットとハサミを用いて、付着した下部組織から生検皮膚を遊離する。ピンセットで皮膚の上部に触れないようにする。



6. 生検サンプルを冷固定液の入ったバイアルに入れる。
7. 患者の氏名、ID、採取部位をバイアルに記入する。

手順

1. 生検実行日を連絡（1週間前まで）
2. 後日、こちらから（採取器具）、固定液、凍結保護液（20% sucrose）を送付（3日前まで）
3. 皮膚生検実施し、サンプルを固定液へ（4℃冷蔵 12時間以上 **24時間以内**）
4. 生検翌日、サンプルを凍結保護液（20% sucrose）へ移し替え、クール便で郵送（発送翌日に到着必須）
5. 講座で保存・解析